

泡瀬・美ら島 便り



内閣府 沖縄総合事務局 / 那覇港湾・空港整備事務所 / 中城湾港出張所

平成20年 11月17日発行

本号は、沖縄市が実施したサンゴの移植についての特集です。

ごあいさつ

平素より、本市建設行政に対しまして格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
中城湾港泡瀬地区では、沖縄市が進める東部海浜開発計画に伴う埋立てにより、消失してしまうサンゴが確認されており、そのことに対して大変危惧していたところでありました。

今年は「国際サンゴ礁年」にあたり、世界各国において、サンゴ礁保全活動が展開されており、沖縄市としてもそのサンゴの保全及び有効活用するために、多くの団体・企業などの協力のもと、具体的な活動のひとつとして可能な範囲でサンゴの移植を行いました。

今後も沖縄市の活性化と環境との共生に努めてまいりますので、市民の皆様には東部海浜開発計画に対して、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、この紙面をお借りして、協力していただいた関係機関・企業の皆様に御礼申し上げます。



沖縄市 建設部長
新垣 秀和

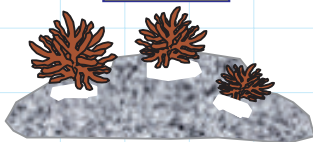
1. 移植手法について

サンゴの移植にあたっては、サンゴの特性に合わせた移植方法(2種類)を行うため、事前作業を1日実施しました。

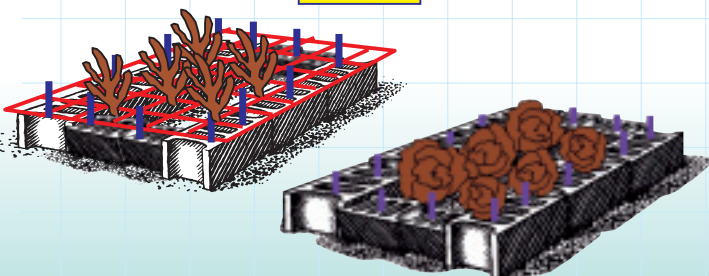
- ①ポンド法：水中ポンドでサンゴ（オヤユビミドリイシ、ホソエダミドリイシ、コノハシコロサンゴ）を岩盤等に接着させるため、岩盤の清掃を実施しました。
- ②ネット法：スギノキミドリイシについては、鉄筋で固定されたブロックにネットを敷設し、ネットの隙間を利用した移植を行うため、鉄筋の打込みやネットの敷設等を行いました。

リュウキュウキッカサンゴやヤッコアミメサンゴについては、ネットの無いブロックで囲われた花壇のような中に移植を行うため、鉄筋の打込み及びブロックの設置を行いました。

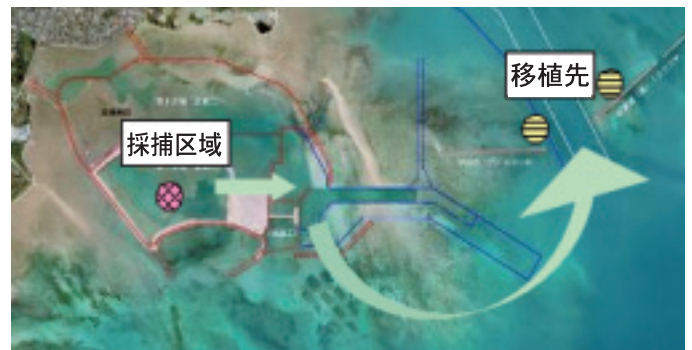
①ポンド法



②ネット法



【移植計画位置図】



【移植するサンゴ】



スギノキミドリイシ



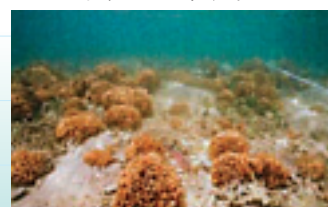
リュウキュウキッカサンゴ



オヤユビミドリイシ



ヤッコアミメサンゴ



コノハシコロサンゴ



ホソエダミドリイシ



2. サンゴの採取～運搬～移植まで

工事区域内のサンゴを採取し、すみやかに船で運び陸揚げします。陸揚げされたサンゴは荷台に生け簀を造ったトラックで仮設棧橋まで陸送し、同じく生け簀が用意された船で移植先まで運搬します。このように移植するサンゴを乾燥等のストレスから守りながら慎重に運搬しました。移植先ではNPOコーラル沖縄の協力ダイバーによって、ひとつひとつ丁寧に移植を行いました。



①サンゴの採取



②陸揚箇所まですみやかに運搬



③運搬するトラックへ



④移植先までの船へ



⑤十分な海水に浸して運搬



⑥移植するダイバーへ



⑦サンゴ根元にバンドを付けて



⑧ひとつひとつ丁寧に移植

3. 移植したサンゴの状況

サンゴの移植は10月30日、11月5日の2日にまたがって実施しました。移植量を運搬した青い籠かごで表すと、スギノキミドリイシ（111籠）、リュウキュウキッカサンゴ（33籠）、ヤッコアミメサンゴ（25籠）、オヤユビミドリイシ（15籠）、ホソエダミドリイシ及びコノハシコロサンゴ（13籠）となり、総量としては210籠になりました。これを重量に表すと2t近くになります。

移植されたサンゴ



スギノキミドリイシ



リュウキュウキッカサンゴ



ヤッコアミメサンゴ



オヤユビミドリイシ



ホソエダミドリイシ



コノハシコロサンゴ

4. 今後について

移植したサンゴについてモニタリングを行い、今後も環境の保全に十分に配慮しつつ、沖縄市の活性のための施策を国、県へ働きかけながら進めて参ります。

イベント等の開催案内

◆ 東部海浜リゾート開発推進協議会パネル展示会

泡瀬地区埋立事業の進捗状況や、環境保全への取組みを紹介するパネル展を開催いたします。近くにお越しの際は、是非いらして下さい。

日時 平成20年12月8日(月)～12月12日(金) 午前8:30～午後5:30

場所 沖縄市役所1階ホール

